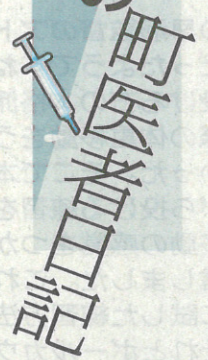


H26. 6. 14

ステージⅣの大腸がん

Dr.

和



「胃腸」シリーズ⑦

今日は進行した大腸がんの話です。大腸がんができて腸管腔が狭くなると、便秘や腹部膨満感などの自覚症状が出ます。その段階で初めて医療機関を受診して検査すると大きな大腸がんが発見される場合が時々あります。「便潜血反応」による検診を受けていればもっと早く発見できたのに」との後悔が頭をよぎります。



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。55歳。

肝臓と肺に転移巣が見つかりました。肝臓に直径5センチと3センチのもの、肺には直径2センチのものが1つ。遠く離れた臓器に転移が見つかれば、がんのステージは自動的に一番上のⅣとなります。一般にステージⅣというところ「もう末期」というイメージがあるかもしれませんが、大

手術と抗がん剤で完治する場合も

腸がんの場合は全く違います。「まだまだこれから」なのです。前立腺がんや乳がんについてもそうです。ステージⅣの大腸がんのこの人は、まず大腸を外科的に切除しました。その後、肝臓と肺の転移巣も切除しました。他にも転移巣があるのかもしれないが、とりあえず画像診断で見える病巣を全部取り除きました。この人の場合は、抗がん剤治療を間にはさみながら計3回の手術が行われました。

その後、10年近く経過した現在でも全く再発がありません。その後、「がんの早期発見・早期治療は全く意味がない」

「どうせ死ぬのだからがんは放置したほうが得だ」「医者の口車に乗って治療したら殺されるぞ」と恐怖をおおる一般書がミリオンセラーになつたり、書店の店頭に並んでいまやめどき」(ブックマン社)、そして近著「抗がん剤が効く人、効かない人」(P H P 研究所)などを読んでいただき、ぜひ参考にしてください。患者さんでもがん治療について勉強して後悔のないがん医療を受けてください。

腸がんの場合は全く違います。「まだまだこれから」なのです。前立腺がんや乳がんについてもそうです。ステージⅣの大腸がんのこの人は、まず大腸を外科的に切除しました。その後、肝臓と肺の転移巣も切除しました。他にも転移巣があるのかもしれないが、とりあえず画像診断で見える病巣を全部取り除きました。この人の場合は、抗がん剤治療を間にはさみながら計3回の手術が行われました。

こうした臨床例を実際に見ていると「大腸がんはあきらめてはいけない。ステージⅣでも完治例があるんだ」と現代医学の進歩に驚くばかりです。町医者として外来診療や在宅医療の中で例にあげたような方に出会ったのが楽しみです。



ステージⅣ がんの進行度を表す数字。その臓器内、周囲のリンパ節や遠隔臓器への広がりからそれぞれの専門学会が定めるステージが決められる。0Ⅳまで5段階ある。大腸がんの場合、ステージⅣの5年生存率は94%、ステージⅣでは19%である。

らちのぼり